

平成26年度 総合的な学習の時間授業改善のための方針

1 昨年度の成果と課題(☆成果 ●課題)

☆各学年の活動内容

- ・3年…地域、昔さがし、百人一首
- ・4年…福祉・生命、十歳を祝おう、百人一首
- ・5年…お米の学校、環境
- ・6年…赤城、国際理解、卒業に向けて
が定着し、円滑に学習が進められるようになった。

☆学習した内容等を下学年に発表・紹介する活動が定着し、次の学年課題への関心・意欲を高め、また異学年間の交流を深めることにつながった。

☆適切なゲストティーチャーにより、体験学習・活動がより深まった。

- 学習に必要な資料や情報を広く収集できるように環境を整備する。
- 学び合う時間を確保し、問題解決力を高めていく。

2 今年度の児童の実態

- ① 興味のある課題を見つけることができる。
- ① 積極的に活動する。
- ② 解決の見通しをもって、活動をすることが難しい児童もいる。
- ③ 多くの情報の中から、課題解決のために必要な資料を選択することが難しいことがある。
- ④ 工夫してまとめる力がついている児童がいるが、個人差がある。
- ⑤ 調べたことを理解し自分のものにするのが難しい児童もいる。

3 今年度の方策

総合的な学習を通して育てたい児童像

【い】 生き方を探り、本物にふれさせる学び。

【ず】 頭脳を働かせて問題解決に迫る学び。

【み】 未来に向けて皆の幸せを願う学び。

⑥ 授業中の指導

- ・ 各教科等と結びつけた単元設定
- ・ 各教科等で身につけた基礎・基本を使った活動の展開。
- ・ 共通の体験（活動・学習）から想起した興味関心を元に展開する学習。
- ・ 計画を立て、見通しをもった学習。
- ・ 丁寧な個への対応。
- ・ 他者と協同して問題を解決し、情報の交換や発表の場の設定。
- ・ 発表で完結するのではなく、発見を生活に生かし生き方を見つめ直す学習。
- ・ ICTを活用した学習

② 全校での指導

- ・ 朝の読書を中心とした読書活動から、興味関心の幅を広げる。
- ・ 国語「A 話すこと・聞くこと」の内容で、話し合い、発表の基礎・基本を身につける。
- ・ 横断的・総合的な学習を展開するため、各教科の発展的内容を扱う。
- ・ 各教科での基礎・基本の定着。
- ・ 「完読の記録」を中心とした読書活動を、学校図書館専門員との連携を通して進める。

4 学年ごとの重点目標

学年	重点目標
3年	児童が課題を設定する前に学校図書館専門員との連携を図り、資料を十分に整えるなど環境整備に努める。
4年	自分の取り組みたいテーマごとにグループを組み、学び合いを中心に据えて活動を進めていく。
5年	体験したことを発表や友達との伝え合いの時間、ゲストティーチャーへの質問の時間などを生かした上でさらに詳しく自分たちで考えをまとめられるようにする。
6年	学校図書館と連携し、児童自ら広く情報を収集できるようにし、その上で細かな課題を児童が再設定できるようにする。